弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため，患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので，お知らせいたします。

研究課題名：　悪性グリオーマにおける MGMT の時間的動態についての検討

研究の目的

膠芽腫に代表される悪性グリオーマは初発から再発まで MGMT (O6-methylguanine-DNA methyltransferase：DNA 修復酵素）のプロモーター領域と呼ばれる部位のメチル化（不活化）が変化することが言われていますが、これに関するデータは十分ではありません。またメチル化のパターンは非常に安定していると考えられていますが、放射線や化学療法など様々な治療によってメチル化の性質が変化することもいわれています。そのため複数回手術を受けた患者さんの MGMT の変化を治療介入があった症例と無かった症例にわけ、その変化動態を検討します。

研究実施期間：　実施許可日～2027 年 3 月 31 日

対象となる方：　2013～2022 年に当院で 2 回以上の手術を行った悪性グリオーマ症例。悪性グリオーマとは WHO 2021 年分類における IDH wild glioblastoma Grade4(膠芽腫グレード 4)，IHD mutant astrocytoma G3,4（星細胞腫グレード 3,4），IDH mutant 1p19q co-del oligodendroglioma G2，3(乏突起膠腫グレード 2,3)です。

利用させていただきたい試料・情報について：

個別のデータは当院の電子カルテもしくは保管している紙カルテ、画像サーバーから収集します。カルテからは主に患者年齢、性別、手術内容、術後治療、放射線化学療法、再発までの期間、死亡までの期間を収集します。各症例毎に施行された先進医療 A(抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査)の結果も流用します。本院病理部に保管されている各手術のホルマリン固定パラフィン標本を利用し、MGMT，LCA，CD68 の免疫染色（特殊なタンパク質を検出する方法）を行います。免疫染色の結果を画像処理し、正確な MGMT 陽性率を計測します。MGMT メチル化の変化を解析し、その変化と予後の関係について検討します。

なお，利用にあたっては氏名，住所，電話番号，患者番号等個人を特定できる情報を削除し，本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます），行います。

研究成果については，学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが，その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが，希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について，より詳細な内容をお知りになりたい場合や，試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は，以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合，当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし，連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は，該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので，ご了承願います。

本件連絡先	医学教育学講座・浅野研一郎 連絡先 0172-39-5545/mail asanoken@hirosaki-u.ac.jp